

『全少』を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに 挑戦しよう!



第98回

養正館館長 渡辺貴斗



## ウチの子、もしかして発達障害？(その 14) もっと遊びたい！(応用行動分析⑤)

子どもが問題行動をとるには原因や理由があり、以下の4つに大別されます。今回は、道場での実例を挙げて考えていきましょう。今回は4の「回避・逃避」の対処法を考えていきます。

1. 注目されたい  
「もっと僕を見て」、「かまってほしい」
2. 感覚刺激  
「楽しい」、「気持ちがいい」、「落ち着く」
3. 要求  
「～したい」、「～が欲しい」
4. 回避・逃避  
「～されたくない」、「～したくない」

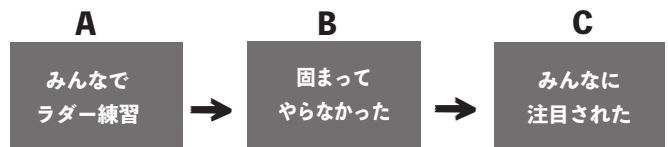
### ★「～したくない」

幼稚園の子が体験入門に来ました。初日から難しいことをやったら嫌がるだろうと思い、その日は形の練習を予定していましたが、変更しラダーを使って楽しくトレーニングすることにしました。子供たちは道具を使った練習が大好きです。しかしながら、その子は固まったまま、ラダーをやりませんでした。他の子供たちはみんな楽しそうにイキイキとやっています。「楽しいよ」と、指導者がやってみよう促しましたが、ダメでした。

いったん全員の練習を中断し、その子のためにやり方をもう一度、詳しく説明しました。

その子が帰宅したあと、お母さんからメールがありました。「難しくてできなかったので、もう空手には行きたくない、と言っています。説得してみますが難しいようでしたらこれで終りにしたいと思い

ます」というメールでした。楽しくて、しかも、子供が大好きな練習内容にしたのに、裏目に出てしまいました。これをABC分析してみます。



### ★問題行動の前に何が起きた？

初めてのラダートレーニング、ちょっと難しすぎたようです。メチャクチャになっても平気でやる子もいますが、できないと絶対にやらない、という頑固な子もいます。できないところを見られたくない、もしくは、できない自分が許せないのです。まず、問題行動が起こる前(A)を考えてみましょう。“ラダーは道具の練習なので楽しいはず”というのは指導者の勝手な思い込みであり、ラダーを初めて見る子は恐怖に感じることもあるでしょう。みんなできているのに自分だけできない、やりたくてもわからないので取り組めない、というのは、真面目で几帳面な子によくあります。

そのような場合、対策として、“低学年グループと高学年グループの2つにレベル分けする”、“3段階のスマールステップを作って段階的に理解させる”、などの工夫が必要ですね。しかしながら、あまり簡単にしすぎると、余裕でできる子にとってはやりがいがなく、つまらなくなってしまうので、できている子にはみんなの前で見本をやらせて、注目してあげるようにします。

## ★問題行動が起きたあとの対処

固まってやらなかったら、「難しかったかな、じゃあ、もう一回説明します。みんなストップ！」などと練習が中断され、みんなから注目を集めてしまい、とても恥ずかしい思いをしました。不甲斐ない自分のせいで、楽しく練習していたみんなは不服そうです。

それでは、どんな対処をしたらよかったですでしょうか？大前提は、問題行動が起こらないように事前に対処しておくべきですが、もし問題行動が起きてしまったら、まずは注目しないであげて、

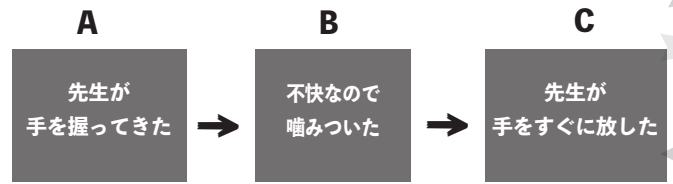
- ① 他の指導者がこっそり別で教える
- ② 他の指導者が、どうする？見るだけにする？など、その場から離してあげる
- ③ 「これは難しいから白帯はできなくて当たり前です」と全体に声をかけ、ハードルを下げる

などの配慮が必要です。問題行動があったあとの対処を間違えると、ますます、固まってしまい練習に参加できなくなってしまいます。つまり、問題行動が強化されてしまいます。

## ★「～されたくない」

形の練習をしているとき、引手を直そうと、その子の手を握って正しい位置を教えることがありますね。すると、突然噛みついたり、振り払ったりする子がいます。彼らは、体を触られるのが極端に不快だからで、自閉症スペクトラムやアスペルガー症候群の子に多いようです。そのようなときは、先生はびっくりして手を放し、あまりのことに呆然としてしまいます。一方、噛みついた子は、噛みつけば手

を放してくれる、と間違っただけを学んでしまいます。これをABC分析してみます。



## ★もっと良い方法があることを教えてあげる

なぜ、この子は噛みついたり、振り払ったりするのでしょうか？それは、単純に、他に方法があることを知らないからです。「噛みつかなくても、相手が手を放してくれる、もっと良い方法があるんだよ」と教えてあげればよいのですね。

「突然、手を触ってゴメン。次からは触らないで伝えるようにするよ」、「どうしても触らなくてはならないときは、先に言うよ」、「噛みつかれて、先生はとても悲しくて、痛かったよ」、「触らなくてはならないとき、先生にどうしてほしい？」など、噛みつくことで相手に不快な思いをさせていること、また、他にもっとよい方法があることを教えます。そして、噛みつかずにできたときは、褒めてあげることも大切です。そうすると、問題行動が減り、望ましい行動が増えていくのです。

### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞を連続で記録する。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12



子供への声掛けと道場経営に役立つ！  
人生を変えるおススメ本！（第5回）

### ■腹巻宏一著 『柔道はすばらしい』★★★★★

スミシングやサッカースクールの運営・経営方法を説明する本は巷にあふれていますが、武道、つまり道場経営に関する著述となるとほとんど見かけることはありません。それら数少ない道場関連本の中でも、出色の内容を誇るのが、腹巻宏一著『柔道はすばらしい』です。

筑波大学大学院を修了した腹巻宏一先生は、1990年に柔道塾紀柔館を開設します。道場理念は「柔道と勉強の両面を指導し、国際社会でリーダーシップがとれるような全人教育を目指す」というものです。子どもたちは下校したら道場へ行き、座学で宿題や勉強をします。そのあと、みんなで畳を敷いて、柔道の稽古をやってから帰宅します。本当の文武両道です。柔道だけでなく勉強も

しっかりやって、全国トップレベルの戦績を残していることにも驚きます。

本の中では、実際のクラス編成およびカリキュラムも詳しく紹介しており、指導者にはとても参考になる内容です。また、多目的道場「スタジオげん紀」の建築にまつわる話、設計で工夫した点など、実際の道場の図面も掲載されていて、これから道場建築を考えている道場経営者には大変参考になるかと思います。我が養正館もこの本を参考に、道場を設計し、建築しました。

私もいつか、道場経営に関する集大成「空手はすばらしい」(笑)を世に出して、若い空手指導者諸氏のお役に立てたらと思っています。